

ふれあいの郷再編整備 基本計画

令和7(2025)年3月

飛島村

第1章 はじめに	1
1. 策定の背景・目的	1
2. 本計画の位置付け	1
3. 計画策定フロー	2
4. 基本方針	3
5. コンセプト	4
6. 導入機能	4
7. 計画地の整理	5
8. 観光交流施設を実現する上での課題（基本構想を再掲）	6
第2章 導入機能・規模の検討	7
1. ターゲット・商圈の設定	7
(1) ターゲットの設定	7
(2) ターゲットごとの機能イメージ	7
(3) 周辺温浴施設の立地状況	8
(4) 商圈の設定	10
2. 利用者数の設定	11
(1) 商圈人口の確認	11
(2) 1日あたり利用者数の想定	11
(3) 駐車場台数の検討	12
3. 事業者意向の確認	13
(1) 事業者アンケートの概要と結果	13
(2) 官民連携事業の推進のための地方ブロックプラットフォームサウンディング	15
(3) 事業者サウンディング(村主催)	16
4. 機能・規模の設定	17
(1) 目指すべき事業効果	17
(2) ターゲット	17
(3) 施設規模	17
第3章 施設イメージの検討	18
1. 新規施設の整備イメージ	18
2. 建物イメージ	19
3. 外構	24
4. アクセス路の考え方	26

5. 配置の考え方	28
6. 平面計画の考え方	29
第4章 管理運営の考え方	31
1. 基本的な考え方	31
2. 運営内容の検討	31
第5章 整備の方向性	33
1. 整備の方向性	33
2. コスト縮減案の検討	33
(1) 原案	34
(2) コスト縮減案パターン①	35
(3) コスト縮減案パターン②	36
(4) コスト縮減案パターン③	37
3. 今後のスケジュール	38

第1章 はじめに

1. 策定の背景・目的



◇村の活性化、交流人口の増加を目指し、事業成立に向けて具体的な機能・規模、配置計画、事業条件、事業範囲を整理します。

ふれあいの郷（以下、本施設とする。）は、昭和 55（1980）年に「老人福祉センター」として設立し、現在も村民に親しまれています。

本施設には観光資源となり得る温泉や足湯があるほか、近隣にはすこやかセンター温水プールも立地しています。名古屋市に隣接している優位性を活かして、本施設を交流拠点として再編整備することで、観光入込客数の増加、村内店舗への誘客、雇用創出、村の魅力発信等、村の活気と魅力づくりを推進し、交流人口の増加を図りたいと考えています。

ふれあいの郷再編整備基本計画（以下、本計画とする。）は、ふれあいの郷再編整備基本構想で検討した本施設の新たなコンセプトや導入する機能等、再編整備に向けた基本的な考えを踏まえ、機能・規模の検討、配置計画を検討するとともに、事業範囲や事業条件を整理し、整備に向けて官民連携手法による事業成立性を検証することを目的とします。

2. 本計画の位置付け

本計画の位置付けは以下のとおりです。

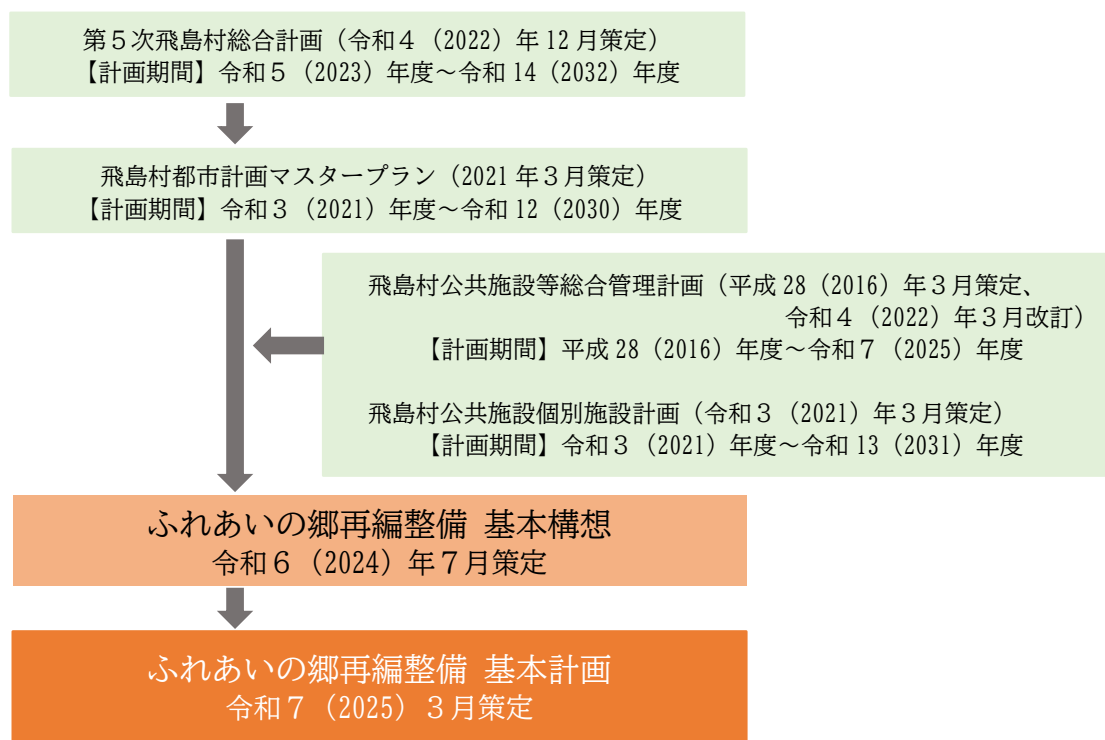


図 本計画の位置付け

3. 計画策定フロー

本計画の策定フローは以下のとおりです。

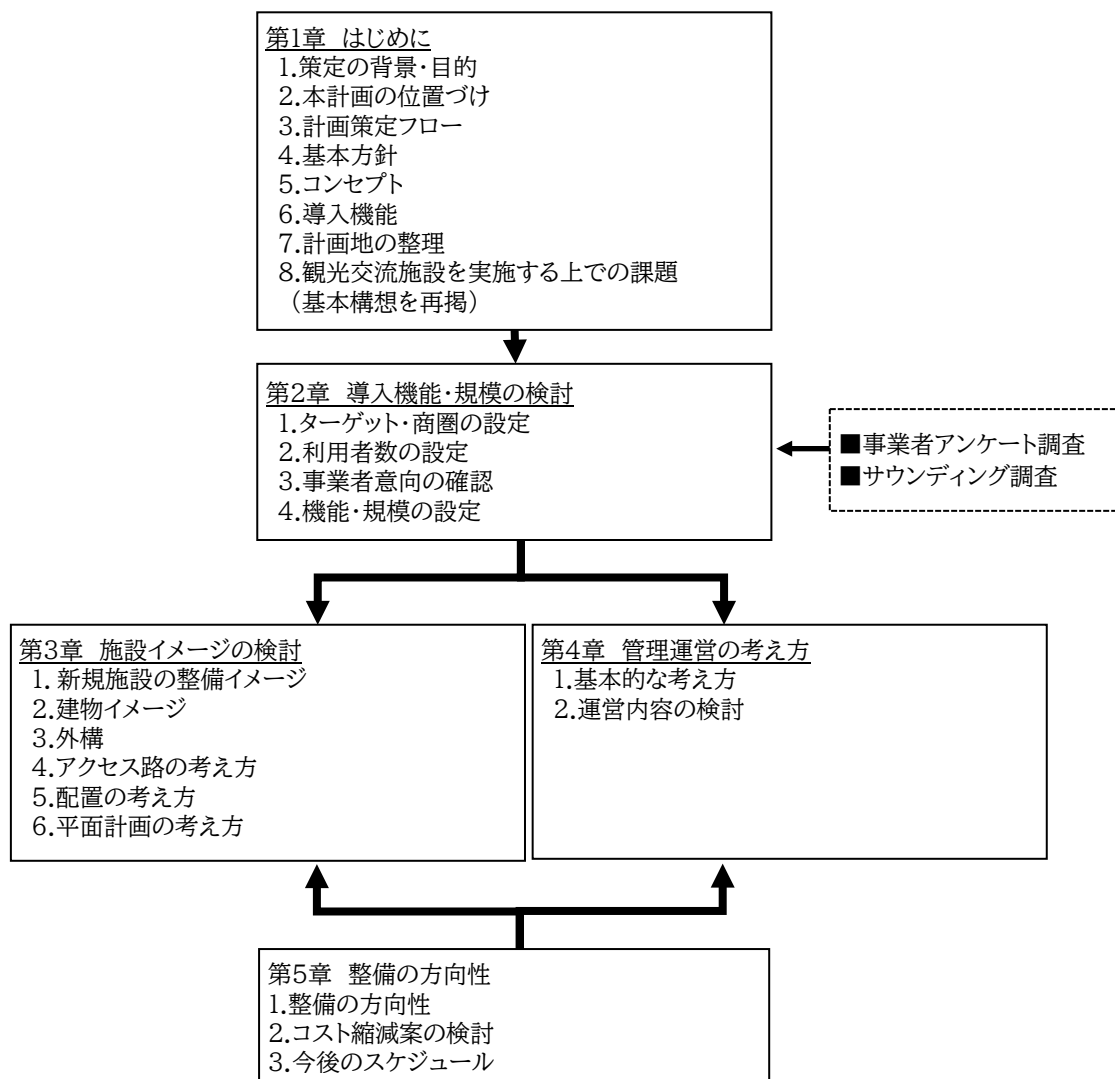


図 本計画の策定フロー

再編整備の必要性(まとめ) ※基本構想を再掲

本村および当エリアの状況のまとめとして、本村は名古屋市に隣接し周辺人口が多く、名古屋方面、三重県方面からのアクセス性が良いといった優位性がある一方で、製造業に偏った産業構造や村内店舗の減少により、交流の減少や村内経済の衰退、今後の人口減少といった点が懸念されます。

本施設が有する立地や温泉資源といった優位性を活用し、新たな魅力を創出する観光交流拠点として再編整備を行うことで、交流人口・関係人口の増加や村内の経済発展、村民の誇り・愛着形成を図る必要があります。



再編整備の必要性

①

交流人口・関係人口
の増加

②

村内への経済波及

③

村民の誇り・愛着
の形成

4. 基本方針

基本構想で本施設の現状および課題を踏まえ、観光交流拠点として再編整備するための対応策（基本方針）は以下のとおりです。

1 温泉を核とした体験・交流によるにぎわい創出

- ◆ 既存資源を活用した誰もが利用できる温泉を整備し、本施設の核として位置付けます。
- ◆ 村民ニーズも高い飲食物販を中心としたくつろげる機能や特産品販売、飛島ならではの体験等、多様な人が気軽に立ち寄ることができ、多世代交流とにぎわい創出に繋がる機能を整備します。
- ◆ 本施設をにぎわい創出拠点として、村全体への波及を目指します。

2 福祉サービス水準の維持

- ◆ 既存の福祉機能と新たに整備するにぎわい機能のゾーン分けを行うことで、現在提供している福祉機能のサービス水準を維持しながら、村外から訪れる人を対象とした開かれた観光交流拠点を形成します。

3 段階的な機能の拡充

- ◆ まずは既存敷地内において、新たな温泉施設の整備や、店舗の新設といった再編整備を実施します。
- ◆ 地元事業者が出店可能なスペースを設けることで、村内経済の発展を促し、村の活気と魅力の向上を図ります。
- ◆ 将来的に敷地が不足する場合は、段階的な敷地拡張を検討することとし、徐々に本施設の認知度を高めることで、需要不足のリスクを回避します。

5. コンセプト

ふらっと

2 村民、企業にお勤めの従業員、通りすがりの人…
誰もが**ふらっと**気軽に立ち寄ることができる空間



ふらっと
気軽に立ち寄る
ことができる

ふらっとな
関係性で交流
できる

ふらっとな村

3 子育て世代、高齢者、障がい者…
誰もが**ふらっと**な関係性で交流
できる空間

1 干拓で生まれた平ら（**ふらっと**）な村のにぎわい拠点

図 コンセプト

6. 導入機能

本施設の再編整備により新たに導入する機能は以下のとおりです。なお、現在提供している福祉サービスの機能を維持しつつ、新たに交流・産業振興・観光機能の導入を目指し、駐車場を整備します。

表 導入機能および概要

導入機能		概要
交流機能	温泉	・本施設固有の観光資源である温泉を活用し、誰でも利用できる温泉観光施設を設置して交流人口の増加を図ります
	飲食・物販等	・地場産品等を販売し、飛島村のPRを行います ・敷地内の福祉関連部門と連携し、高齢者や障がい者の社会参加の促進を図ります
	休憩スペース等	・村の景観を楽しむことが出来る休憩スペース、子どもが遊べるスペース等により、来訪者の滞在時間の増加を図ります
産業振興機能	イベントスペース	・キッチンカーイベントやマルシェの開催等が可能なイベントスペースを配置し、地元事業者の出店等による産業振興を図ります
	チャレンジショップ	・飲食・物販店等の起業希望者が利用可能な出店スペースを配置し、村内での起業を支援します
観光機能		・観光案内や情報発信を行います
駐車場機能		・来訪者の増加を見据え、駐車場を整備します

7. 計画地の整理

計画地は、周辺に開発用地や居住地域がないエリアですが、国道から1区画隔てているものの、既存施設を事業用に有効活用できる場所です。

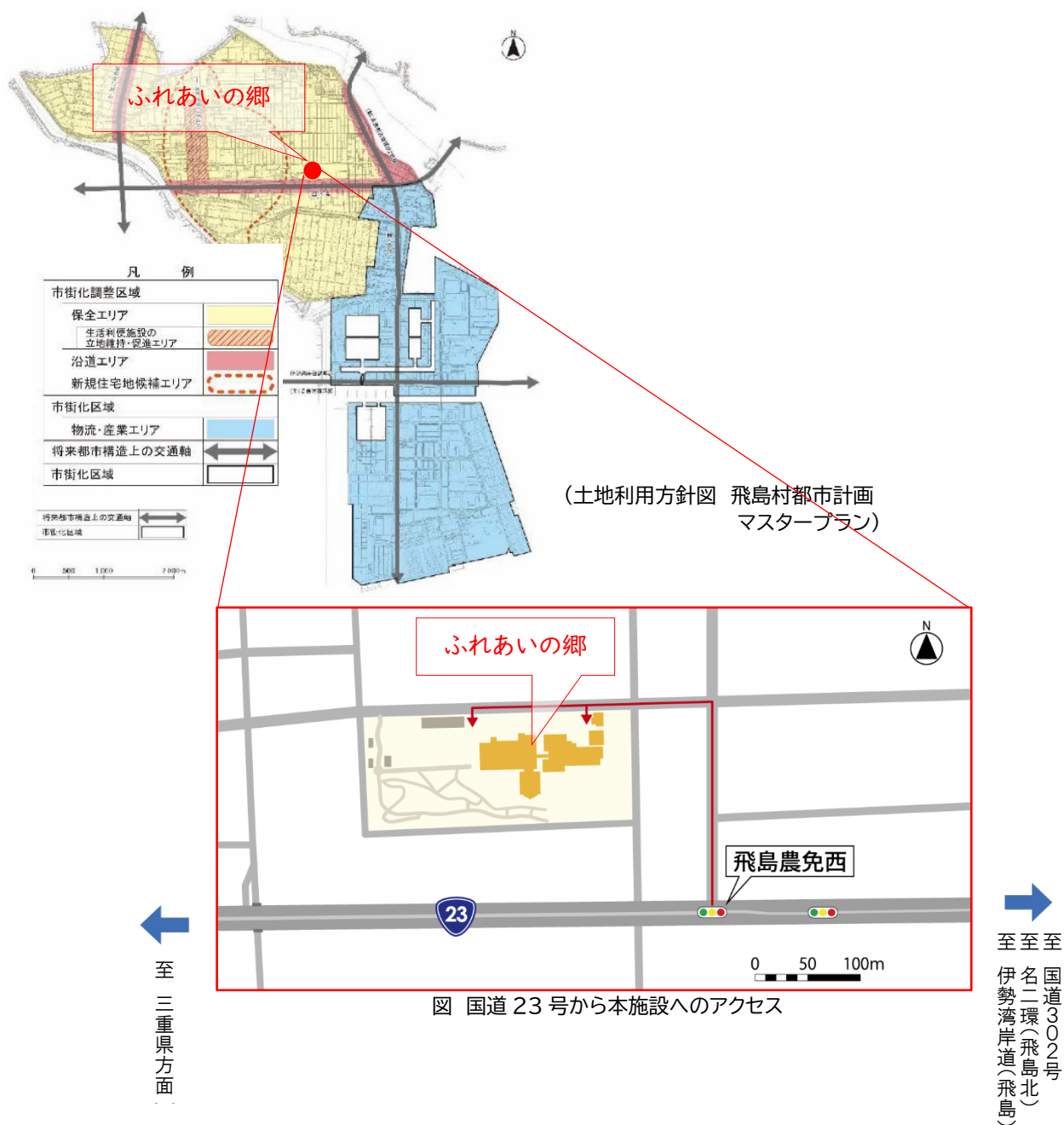


図 国道23号から本施設へのアクセス

図 位置図

表 計画地の概要

所在	愛知県海部郡飛島村竹之郷五丁目43番地
都市計画上の位置づけ	市街化調整区域、農業振興地域

8. 観光交流施設を実現する上での課題（基本構想を再掲）

基本構想で整理した本施設を観光交流施設として再編整備するための課題は以下のとおりです。

現状・ニーズ等のまとめ 文末は課題番号		観光交流施設の実現に向けた課題
村の状況	・すこやかセンター温水プールやふれあい温泉は、村外利用も多い【②】 ・商業施設や飲食チェーン店といった交流施設や余暇施設が不足している【②】 ・本施設の商圈人口（半径9km 圏内）は約 41 万人と多い【③】 ・産業構造では製造業や運送業が 70%以上を占めており、小売業やサービス業が少なく、村内小売業は減少傾向にある【③】 ・農業従事者の高齢化や後継者不足により、生産力が低下するとともに農業生産者が減少しており、担い手の確保・育成が求められている【③】	課題① 既存施設の活用 既存敷地・施設を活かした再編整備や、現在提供している福祉機能との棲み分けが必要です。
立地条件	・市街化調整区域であり、村が建設する場合、敷地内の再編整備が可能【①】 ・民間開発の場合、観光資源の有効活用として整備を行うことも考えられるが、許可権者との調整が必要【①】 ・周辺の農地は「農業振興地域の農用地区域」であり開発は非常に難しい【①】 ・付近に国道や高速道路が通り、名古屋・三重県方面ともアクセスしやすい【③】 ・国道から一本中に入った道沿いに立地しており、視認性が良くない【③】	課題② 多世代交流の実現 若年層や子育て世代、通勤で本村に訪れる人等、新たな利用層を確保する必要があります。
施設状況	・温泉汲み上げ量に余剰があり、泉質は単純温泉（低張性・弱アルカリ性・高温泉）、温度は源泉 43.9℃【①】 ・施設状態は良好で、早期に修繕が必要な箇所は存在しない【①】 ・温泉を含め、村内高齢者の利用が中心【②】	課題③ 集客力の向上 村内経済を発展させ、村の活気と魅力を発信することで、周辺の国道・高速道路を利用する人や、名古屋市内からの誘客を促す必要があります。
観光状況	・本村周辺には、年間 20 万人以上訪れる観光施設や、温泉や産直市を有する類似施設が立地【④】	
各種ニーズ	・温泉や足湯を活かした多世代交流施設がほしい（村民）【①】 ・気軽に立ち寄れるような飲食物販施設がほしい（村民・村内で働く人）【②】 ・高齢者が利用するイメージが強いいため知名度向上が必要（村民）【③】 ・村の特産品を取り入れた施設がほしい（村内で働く人）【④】	課題④ 飛島村らしさの創出 飛島村ならではの要素を取り入れ、周辺市町村にある観光施設や類似施設との差別化を図る必要があります。
事業者意見	・レジャー帰りの利用が見込まれる【③】 ・村外からの集客を増やす必要がある【③】	

第2章 導入機能・規模の検討

1. ターゲット・商圏の設定

(1) ターゲットの設定

本施設は、村民や通勤で本村に訪れる方々、近隣の市町にお住まいの方々、幹線道路を使って本村を移動される方々が気軽に立ち寄ることができる、日常的な交流・憩いの場を目指します。

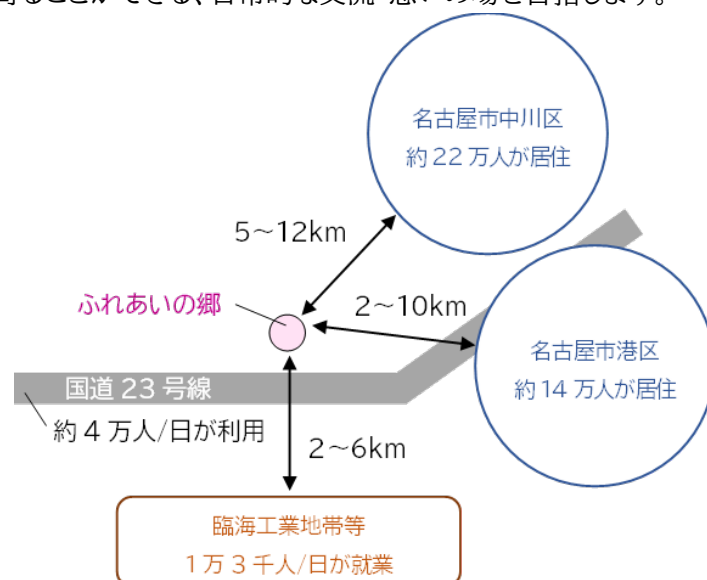


図 ターゲット設定

(2) ターゲットごとの機能イメージ

基本構想で設定した機能を、ターゲットごとに整理すると以下のようになります。

表 ターゲットごとの機能イメージ

導入機能		ターゲットごとの機能イメージ		
		村民・ 既存施設利用者	村内就業者・ 村内幹線道路利用者	近隣市町住民
交流機能	温泉	高齢者の既存温泉の利用環境を維持しつつ、一般客も利用できる新たな温泉	帰宅途中に日常的に立ち寄り交流できる温泉	休日等にファミリー層が滞在し交流できる温泉
	飲食・物販等	昼間にゆっくりと滞在できるレストラン等	帰宅途中等に食事をとることができるレストラン等	家族連れが食事をとることができるレストラン、昼間にゆっくりと滞在できるレストラン等
	休憩スペース等	高齢者向けの既存施設を維持しつつ、新たに整備する施設は多世代交流も可能な場所	湯上りの休憩や、立ち寄り者の休憩ができる場所、移動途中でPC作業等が可能な場所	温泉を利用しなくても滞在できる場所、悪天候時でも子どもを遊ばせることができる場所
産業振興機能	イベントスペース	キッチンカーイベントやマルシェの開催等が可能な場所		
	チャレンジショップ	村内事業者の新規事業形態の試行等が可能な場所	村内への出店希望者等が起業可能な場所	
観光機能		村内イベント等の周知、村内アクティビティの案内、受付等		
駐車場機能		既存施設駐車場、既存施設倉庫等を維持	新施設来訪者向けの自家用車の駐車場を確保 管理の観点から24時間営業は想定しない	

(3) 周辺温浴施設の立地状況

飛島村周辺には、延床面積3,000～4,000㎡程度の温浴施設が立地しており、330㎡あたりの商圈を1kmと仮定した場合、ふれあいの郷周辺も他の施設の商圈の範囲に含まれるため、魅力的な施設づくりが必要となります。

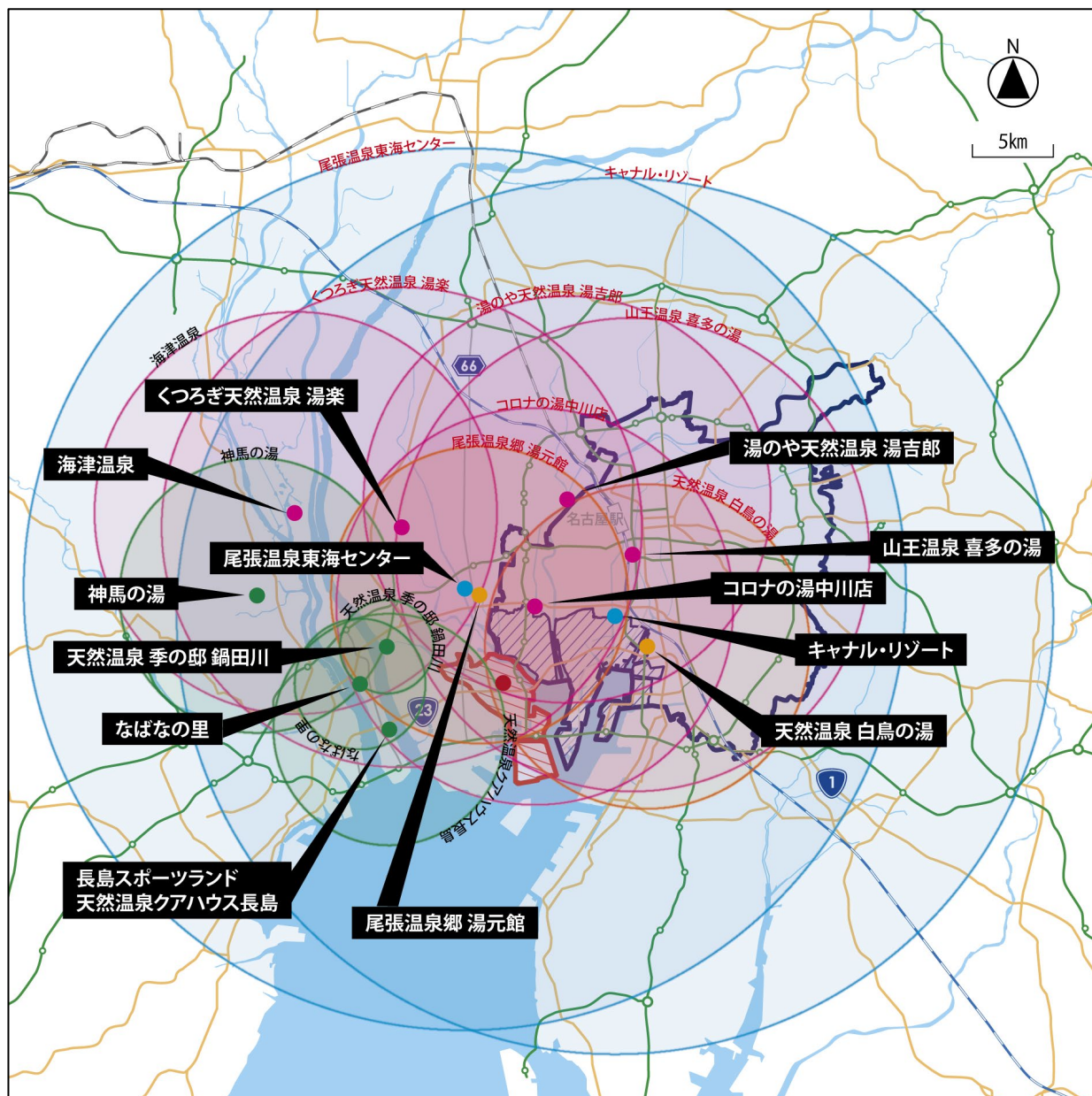


図 周辺の温浴施設の立地状況と商圈

飛島村周辺の温浴施設の床面積は以下のとおりです。

表 周辺の温浴施設の床面積

所在地	温浴施設部分の延床面積(㎡)	
愛知県蟹江町	尾張温泉郷 湯元館	3,000
	尾張温泉東海センター	9,000
愛知県清須市	湯のや天然温泉 湯吉郎	4,000
岐阜県海津市	海津温泉	4,000
三重県桑名郡木曾岬町	天然温泉 季の邸 鍋田川	1,000
三重県桑名市	長島スポーツランド天然温泉クアハウス長島	2,000
	なばなの里	1,000
	神馬の湯	3,000
愛知県津島市	くつろぎ天然温泉 湯楽	5,000
愛知県名古屋市中川区	コロナの湯中川店	4,000
	キャナル・リゾート	8,000
	山王温泉 喜多の湯	5,000
愛知県名古屋市港区	天然温泉 白鳥の湯	3,000

※延床面積は、地図等を基に想定した。

村内の大規模事業所や隣接する名古屋市港区や中川区からの集客を想定し、商圈範囲9km、延床面積3,000㎡程度の施設が想定されます。

- ・商圏:自動車で15分~30分
- ・施設規模:1,500㎡~2,500㎡
- ・滞在時間:1時間から1.5時間

凡例

●	延床面積 0～3,000㎡
○	3,000～4,000㎡
●	4,000～5,000㎡
○	5,000㎡～

尾張温泉東海センター
キャナル・リゾート
くつろぎ天然温泉 湯楽
湯のや天然温泉 湯吉郎
山王温泉 喜多の湯
コ罗纳の湯中川店
尾張温泉郷 湯元館
天然温泉 白鳥の湯
神馬の湯
海津温泉
天然温泉 季の邸 鍋田川
なばなの里
長島スポーツランド 天然温泉クアハウス長島
尾張温泉郷 湯元館
商圏半径 9km

5km

10

2. 利用者数の設定

(1) 商圏人口の確認

商圏範囲9kmに含まれる人口は、令和2年国勢調査人口で約41万3千人となります。

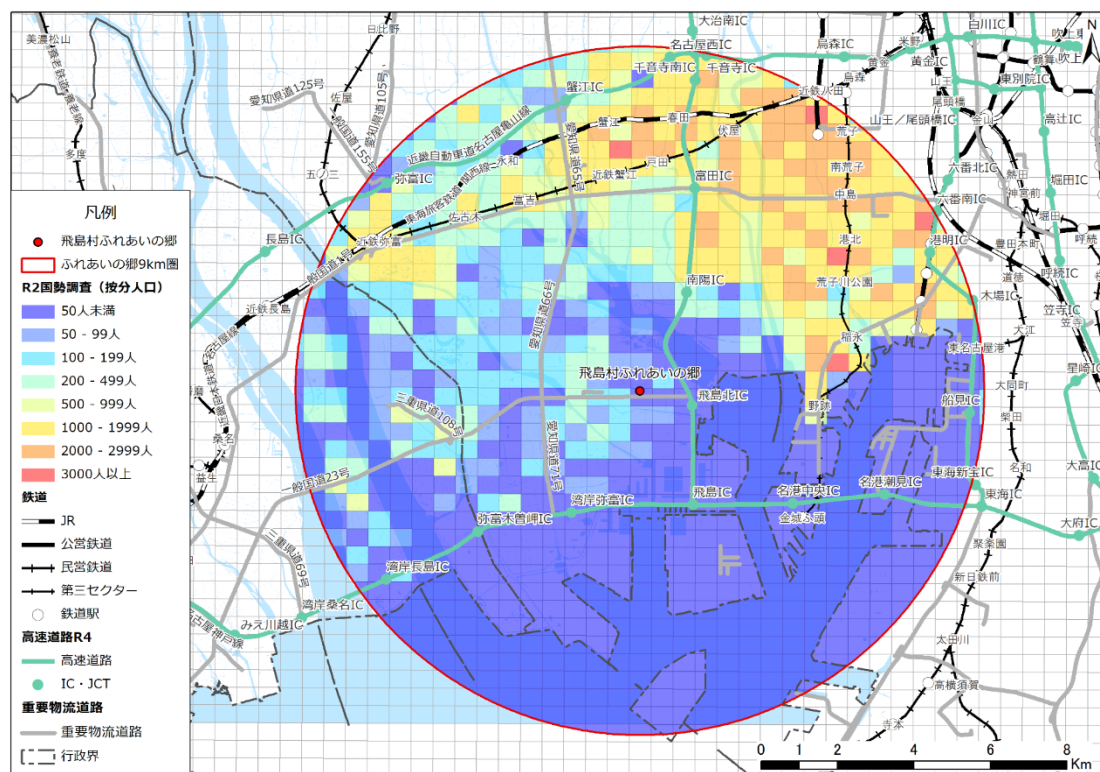


図 商圏人口

(2) 1日あたり利用者数の想定

他事例調査を参考に、人口ひとりあたりの年間スーパー銭湯・日帰り温泉の利用回数を約 10～約 20 回と想定した場合、本施設の商圏人口 41 万人に対して、年間延べ 440 万人～920 万人の需要があることになります。

競合施設が 13 施設あるため、本施設を含む 14 施設でこの需要を按分すると仮定した場合、本施設の年間利用者数は約 32 万人～66 万人となります。

表 利用者数の想定

	事例 A 参照	事例 B 参照
人口1人あたり温浴施設 年間利用回数	10.71 回/年	22.39 回/年
商圏人口	41.3 万人	41.3 万人
商圏人口に対する 温浴施設年間利用者数	443 万回	925 万回
1施設当たり利用者数	320,000人/年	660,000人/年

(3) 駐車場台数の検討

以下の確認結果を基に、平日の駐車場必要規模を満たす駐車場を設置します。なお、日祝日のピーク時には、役場及びすこやかセンターの駐車場(約380台)の活用を想定しています。

① ピーク時の駐車場必要規模

温浴施設データファイル 2024 における収容人数を参考に、最大収容人員600人が来訪すると想定した日祝日等のピーク時に、自家用車1台あたり1.73人が乗車して来訪すると想定すると、駐車場必要台数は350台程度となります。

表 日祝日等の駐車台数の算定

温浴施設データファイル 2024 における600 坪(2,000 m ²)の収容人数(A)	今回想定 of 施設規模(3,000m ²)における収容人数(B=A×1.5)	R3 交通センサスにおける日祝日の私用目的の平均乗車人数(C)	ピーク時(600名来場時)の駐車場必要台数(D=B÷C)
400 人	600人	1.73	350台

② 休日1日あたりの利用者数の推計

日祝日の回転率を2.14と仮定すると、休日1日当たり利用者数は1,300人となります。

表 休日1日あたりの利用者数の推計

休日ピーク時利用者数(E)	温浴施設データファイル2024における休日回転率(F)	休日1日あたり利用者数(G=E×F)
600人	2.14	1,300

③ 平日1日あたりの利用者数及びピーク時利用者数、駐車場必要台数の推計

来場者の平日休日比が1.87~2.15、ピーク率が40%と仮定し、自家用車1台あたり1.43人が乗車して来訪すると想定すると、駐車場必要台数は170~200台程度となります。

表 平日の駐車台数の算定

	温浴施設データファイル2024における平日休日比(平日=1)(H)	平日利用者数(I=G÷H)	ピーク時利用者数※ピーク率40%と仮定(J=I×0.4)	R3 交通センサスにおける平日の私用目的の平均乗車人数(K)	駐車場必要台数(L=J÷K)
スーパー銭湯	1.87	700 人	280 人	1.43	200 台
日帰り温泉	2.15	600 人	240 人	1.43	170 台

3. 事業者意向の確認

(1) 事業者アンケートの概要と結果

温泉運営や飲食・物販を中心にテナント出店を行う事業者、出資者として事業をとりまとめる立場にある事業者に対して、「にぎわいゾーン」に必要な機能・規模、事業収支、参加意欲等についてアンケート調査を行いました。

約 1,300 社にアンケートを送付し、得た回答結果より、意欲的な回答を得られた方の業種から、レストランやカフェ等のテナントの誘致は難しく、一方でテイクアウトの飲食店や温浴事業者と連携した飲食店であれば設置できる可能性があることが分かりました。

表 実施概要

実施日	令和 6 年 7 月 12 日(金)～31 日(水)回答締切
実施方法	帝国データバンクのリスト等を活用して、郵送にて配布・回収

表 温浴施設運営事業者 回答結果

1.温浴施設 運営事業者	
送付事業者	132 社
回答事業者	7 社(回答率 5.3%)
出店意欲	ぜひ出店したい:1 社 公的な支援があれば検討してもよい:1 社 出店は難しい:5 社

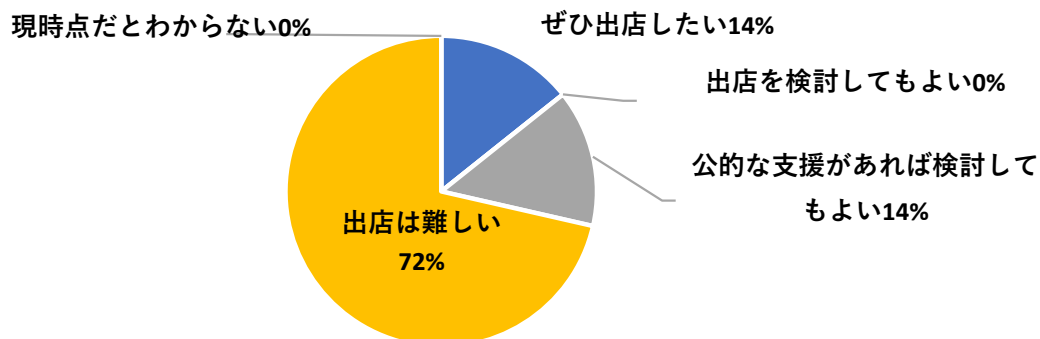


図 温浴施設運営事業者 回答結果

表 飲料店・飲食料小売店 回答結果

2.飲食店・飲食料小売店	
送付事業者	942 社
回答事業者	66社(回答率 7.0%)
出店意欲	ぜひ出店したい:3 社 出店を検討してもよい:6社 公的な支援があれば検討してもよい:6社 出店は難しい:40 社 現時点だとわからない:11 社

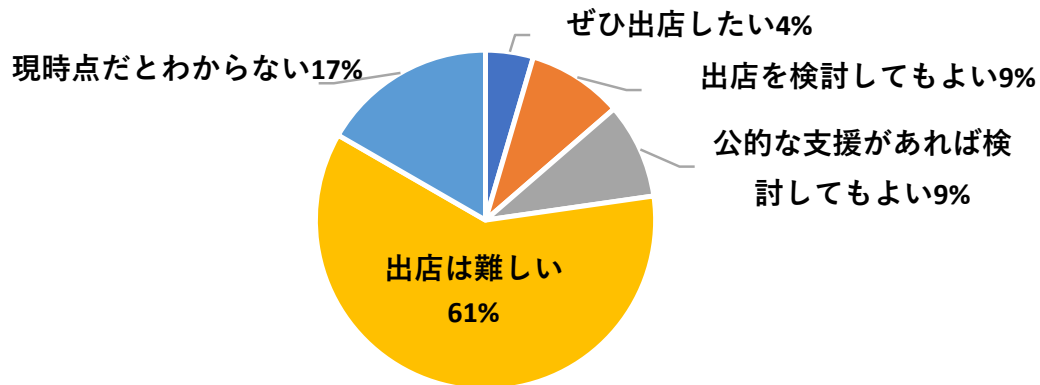


図 飲料店・飲食料小売店 回答結果

表 商工会 回答結果

3.商工会	
送付事業者	203 会員
回答事業者	42 会員(回答率 20.7%)
出店意欲	ぜひ出店したい:0会員 出店を検討してもよい:1会員 公的な支援があれば検討してもよい:3会員(重複回答 1会員) 出店は難しい:28 会員 現時点だとわからない:10 会員(重複回答 1会員)
チャレンジショップの設置	良いと思う:31 会員 分からない:5会員 無回答:6会員

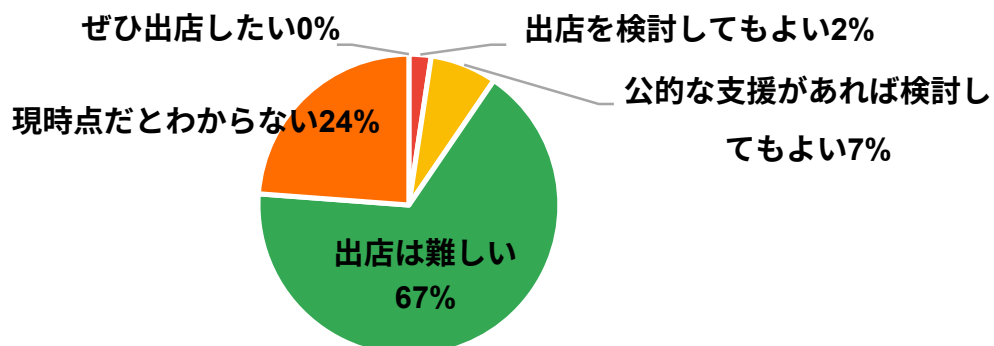


図 商工会 回答結果

※チャレンジショップの設置に関して、「良いと思う」という回答の中に、「若い方の定住促進に向けて色々な方が挑戦しやすい制度が整えられるとよい、村内での事業展開の第一歩の場となると良い、等の意見がありました。

(2) 官民連携事業の推進のための地方ブロックプラットフォームサウンディング(国土交通省主催)

サウンディングとは、民間事業者との意見交換を通し、事業に対して様々なアイデアや意見を把握する調査のことです。「官民連携事業の推進のための地方ブロックプラットフォームサウンディング」は、内閣府及び国土交通省が官民連携事業の導入を一層促進し、さらに地域活性化や地域経済の発展にも寄与する官民連携事業の案件形成を支援する目的で行っているものです。

表 実施概要

日時	令和 6 年 7 月 26 日(金)午前9時 50 分から 10 時 50 分まで
実施方法	国土交通省が主催する公開サウンディングに応募し、申し込みがあった事業者と Web で意見交換
参加事業者	9 社(上限 10 社で申し込み事業者は 10 社)

実施結果としては、申込者数が上限に達する等、民間事業者の本プロジェクトに対する関心の高さが伺えました。申込者全員と同時に意見交換をする方式のため概略の意向確認となりましたが、事業規模(予算規模)によって提案できることが変わるため村の意向を固めて欲しい、DBO(設計施工運営一括発注)などで、運営を見据えた設計施工を行うと良い等の意見がありました。

表 各社の主な意見

A 社	当社は公共施設運営維持管理や企画イベントをやっている。DBO(設計施工運営一括発注)が理想的と考える。どのような施設規模を想定しているのか。それに見合う検討をしたい。福祉施設と新施設の相乗効果を生み出せるように出来ればよい。
B 社	当社は飛島村にプラントを構えている。DBO または DB が理想かと思う。施設規模がポイントとなる。子どものあそび場や防災機能があると良い。
C 社	当社は指定管理を多く実施している。運営目線の指摘を設計に反映できる DBO が望ましい。学びの連携づくりや、多世代交流が出来ると良い。
D 社	まだ実績がなく回答を持ち合わせていないが、災害時の対応や役場との機能のすみ分け等を一緒に考えていきたい。
E 社	DBO または BTO(PFI 法に基づく設計施工運営一括発注)が望ましい。物価上昇を加味した運営費確保が必要。物販重視なのか、公益重視なのかでも何をするかが変わってくる。
F 社	当社は公園の指定管理をおこなっている。DBO で管理運営を見据えた設計施工をした方が良い。公園で色々なイベントや珍しいアトラクションで知名度を高め、集客の増加を図ると良い。事業規模によって出来る事が変わる。
G 社	当社は指定管理や PFI、パーク PFI 等にも関わっている。村外からも人を呼ぶならば拡張も視野に入れると良い。インパクトが重要。まずは何を指すのか考えると良い。
H 社	対象は平日の村内客メインなのか、休日の村外客メインなのか。ある程度の大きな施設であれば BTO や PFI になるが、温浴施設の増設程度であればそこまでなくてもよい。
I 社	DBO が良いが、EOI(運営事業者先行決定方式)なども良い。大通りに面していないことがネック。

(3) 事業者サウンディング(村主催)

温泉を核としたふれあいの郷の再整備について、参入意欲、条件を確認する目的で、公募形式で広く民間事業者と意見交換を行いました。

表 実施概要

実施時期	令和 6 年 10 月 21 日(月)～11 月 1 日(金)	
実施方法	村公式 HP にてサウンディングを行う旨を周知し、申し込みがあった事業者と対面もしくは Web で意見交換(非公開)	
参加事業者	14 社	
	内訳	
	温浴施設・道の駅運営等	7 社
	テナント誘致等	2 社
	公共施設運営等	1 社
	SPC 運営等	1 社
	公園設備等	1 社
	建設会社	1 社
	農業振興	1 社

※SPC…Special Purpose Company の略。特別目的会社。

ある特別の事業を行うために設立された事業会社のこと。官民連携事業では、公募提案する共同企業体(コンソーシアム)が、新会社を設立して、建設・運営・管理にあたることが多い。

【結果概要】

サウンディングした 14 社のうち、是非参入したいという進出意欲の高い事業者の意見を集約すると以下の意見がありました。

表 温浴施設の運営経験があり、かつ、進出意欲の高い事業者の意見

・露天風呂は必須で温浴施設は合計 2,500 ㎡以上(露天風呂・飲食含む)必要。 ・飲食物販は道の駅のように地場産品を扱う場合は 1,000 ㎡以上必要。 ・温浴施設と飲食物販は客層が異なる。 ・平日はトラックドライバーや村内事業所の従業員など既にある需要を取り込むと運営が安定する。休日はファミリー層を取り込むと効果的。
--

表 各社の主な意見

温泉施設・道の駅運営等	A 社	温泉施設建設運営に参入したい。既に設計、建設、運営でチームを組んでいる。収穫体験等の農業関係の地域振興も可能。
	B 社	温泉施設建設運営に参入したい。近隣で独立採算の温泉施設の実績がある。
	C 社	温泉施設建設運営に参入したい。他施設の実績もある。近隣で道の駅の運営も実施する。
	D 社	温泉施設建設運営に参入したい。規模は大きい方が良い。
	E 社	道の駅にするのであれば参入可能性が高まる。収穫体験や着地型観光もできる。
	F 社	まずは社会実験イベントを実施して初めから検討すべき。
	G 社	独立採算でなければ参入できる。
テナント誘致等	H 社	協力事業者としてデベロッパー等の下で参画したい。
	I 社	まずは社会実験イベントを実施して初めから検討すべき。
公共施設運営等	J 社	協力事業者として運営等に参画したい。
SPC 運営等	K 社	協力事業者として民間資金調達や SPC 運営に参画したい。
公園設備等	L 社	地元に貢献したい。温泉業者とチームを組むことが出来れば参入できる。
建設会社	M 社	DBO であれば参入できるが、建設工事だけ発注されても規模が小さく対応が難しい可能性がある。
農業振興	N 社	協力事業者として収穫体験等の農業関連の地域振興の取り組みを実施したい。

4. 機能・規模の設定

(1) 目指すべき事業効果

本整備事業は、年間 30～40 万人(1 日あたり約1,000人)を集客し、村内での観光・飲食・買い物、農業体験等の拠点となります。

(2) ターゲット

- ・平日:村民、村内勤務の労働者
- ・休日:村民、近隣市町居住のファミリー

(3) 施設規模

【建物】

温泉部門と飲食部門で最低 2,500 m²とし、加えて公的な機能としてイベントスペース等を設置します。

【屋外施設】

にぎわいの創出と管理コストを勘案して、広場を1箇所設置します。

平日の駐車場の需要(想定)及び先行事例等を参考に、駐車場を確保します。休日ピーク時の駐車場については、他施設との連携やバスの活用等も含めて検討します。

第3章 施設イメージの検討

1. 新規施設の整備イメージ

近年の道の駅などの地域交流施設の整備事例及び、温浴施設開発&管理・運営計画資料集を参考に各機能の面積を想定すると、以下ようになります。

なお、これらの機能全てを整備すると3,500㎡程度の大きな施設になるため、1つのスペースに複数の機能を持たせたり、既存の建物を活用したりすることで規模を縮小し、トータルコストを縮減することについても今後検討が必要となります。

表 各機能の想定面積イメージ<建物編>

導入機能	整備内容	想定面積
温浴施設	・ロッカー数:600 名程度を想定。 ・ロビー、ラウンジ、トイレ、脱衣所、洗い場、風呂、露天風呂、サウナ等を設置。 ・岩盤浴は設けない。 ・屋外機械室は別途設置する。	2,000㎡
飲食・物販	・温浴施設と一体的な飲食および、その一角に物販。500㎡～600㎡程度。 ・飲食物販は同一の会計で対応を想定している。	550 ㎡
休憩スペース等	・休憩、イベント等に利用できるスペース。一角にチャレンジショップ・シェアキッチン(20 ㎡程度)を設置。 ・玄関ホール(約 130 ㎡)と倉庫等(50 ㎡)を連携して利用できるように配置する。	500 ㎡
イベントスペース		
チャレンジショップ		
観光機能	・観光交流協会のオフィス。相談等は休憩、イベントスペースを使用。 ・観光案内やツアー受付等を行うため、分かりやすい位置に設置する。	80 ㎡
トイレ等	・1階利用者用のトイレ。 ・滞在者数300人として男子大3器小3器、女子4器を想定(40～50㎡程度)。	70 ㎡
授乳室・休養室等	・授乳室10～20㎡、休養室10～20㎡程度。	
子どもの遊び場	・子どもの遊び場 300 ㎡を配置。うち遊戯エリア 150 ㎡、受付、待合等 150 ㎡を想定。 ・収容人数は 50 名を想定。	300 ㎡
合計		3,500㎡

表 各機能の想定面積イメージ<屋外>

導入機能	整備内容	想定面積
芝生広場	・イベント等で活用可能な芝生広場を1箇所に集約して設置する。	4,000 ㎡
駐車場	・200 台程度の駐車場を設置する。	6,000 ㎡

2. 建物イメージ

① 温浴施設

- ・温泉エリアへの入館は、入館料を必要とします。
- ・浴室には露天風呂を設置し、外からの見え方に配慮しながら、開放的で居心地の良い空間を提供します。
- ・サウナ等を設置し、若者などの新たなニーズにも対応します。
- ・メンテナンス性を考慮した設備計画を行います。
- ・ブレジャー(「Business + Leisure」の造語。)として出張先などで滞在期間を延長し、余暇を楽しむためのワークスペースを配置します。

表 主な施設・設備と想定面積

主な施設・設備	想定面積
・浴室(男女) ・露天風呂 ・サウナ ・飲食 ・脱衣所/トイレ ・ワークスペース	約 2,000 m ² ロッカー数 600 人分程度を想定

○イメージ



出典: 桑名市観光サイト「神馬の湯」

② 飲食・物販

- ・飲食・物販は、温泉部門の利用者だけでなく、飲食のみの利用者にも対応し、両者が利用しやすい動線計画を行います。
- ・飲食部分は、落ち着いて食事の利用ができるように配慮します。
- ・駐車場からのアクセスに配慮した店舗計画を行います。
- ・敷地内の福祉関連部門と連携したサービスの提供を行います。
- ・観光機能や休憩スペースの利用を考慮した飲食物販を行います。
- ・飛島村ならではの特産品の販売を検討します。

表 主な施設・設備と想定面積

主な施設・設備	想定面積
・ベーカリーやカフェ等 ・特産品販売 ・飲食可能なイートインスペース	500～600 m ² 程度

○イメージ



出典：秋田県男鹿半島の観光情報サイト 男鹿ナビ
男鹿総合観光案内所「アメヤ珈琲男鹿船越店」



出典：いなべ市ホームページ にぎわいの森
「キッチン エ ビオ いなべ ヒュッテ」

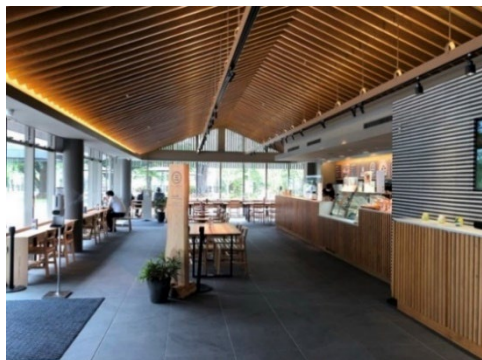
③ 休憩スペース・イベントスペース

- ・ご高齢の方から乳幼児連れの子育て世代まで幅広い世代が快適にくつろげるスペースとします。
- ・景観・自然を楽しめる施設計画を行います。
- ・長時間滞在できるように飲食が可能なエリアを設置します。
- ・飲食物販と隣接させて、利便性の向上を図ります。
- ・様々なイベントに対応できる設備を整備し、どなたでも利用しやすい環境を整えます。
- ・広場と一体的に利用できるように施設内外の動線・配置計画とします。
- ・イベント等を実施していないときも自由に利用可能とし、ゆったりとした空間計画を行います。
- ・イベントスペースの一角にチャレンジショップを設置します。

表 主な施設・設備と想定面積

主な施設・設備	想定面積
・屋内休憩スペース ・玄関ホール ・ソファ、椅子、テーブル ・キッチン設備 ・水道設備 ・大型スクリーン	・倉庫 ・プロジェクター ・机/椅子 チャレンジショップ、玄関ホール(130 m²程度)、倉庫(50 m²程度)等と合わせて 500 m²程度を想定

〇イメージ



出典：一般社団法人 小田原市観光協会 HP
「小田原市観光交流センター」



出典：せきのまど(関市観光協会)「多目的ホール じゅうなひろま」

④ チャレンジショップ

- ・新規開業者に向けて、一定期間試験的に貸し出し、独立開業を支援するスペースを設置します。
- ・キッチン設備を置くことで、簡易的な飲食の提供を行えるようにします。

表 主な施設・設備と想定面積

主な施設・設備	想定面積
・シェアキッチン設備	20 m ² 程度

⑤ 観光機能

- ・観光交流協会が実施している事業・サービスをさらに展開し、広めていけるように、観光交流協会のオフィスを設置し、民間事業者と連携して、飛島村の観光情報を積極的に発信、案内します。
- ・外国の方にも対応できるように工夫します。
- ・地域資源、歴史・文化に触れることのできるコンテンツを計画します。
- ・相談時は休憩スペースやイベントスペースの活用を想定するため、近接して計画します。

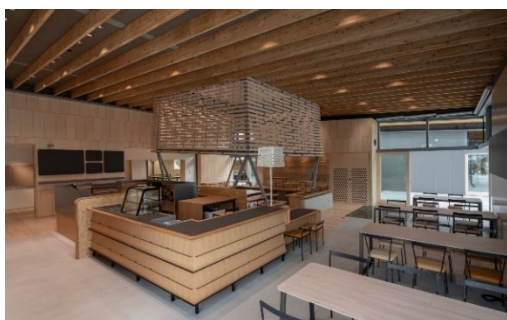
表 主な施設・設備と想定面積

主な施設・設備	想定面積
・観光交流協会事務局 ・無線 LAN ・観光情報コーナー ・デジタルサイネージ	事務所部分：30 m ² 程度 倉庫：50 m ² 程度

【観光交流協会の事業例】

事業名	概要
イルミネーション「Tobishima Lights」 ・お楽しみ抽選会	竹あかりなどのイルミネーションとともにナイトマーケット、抽選会等を実施し、約2カ月間で約 12,000 名が来場
飛島ふ頭クルーズ(トビシマクルーズ)	国内最大級のコンテナターミナルを海上から見学するクルーズを実施(8日間で631名が参加)
全国工場夜景都市協議会との連携	「全国工場夜景都市協議会」にはじめて「村」として加盟
とびしま宵あかり	風鈴とイルミネーショントンネルによる癒しの空間を演出
とびしまマルシェ	村内外の商店が出店する1日のイベントで約8,400名が来場

イメージ



出典：せきのまど(関市観光協会)「観光案内所 せきのまどぐち」

観光機能に関連し、本施設を村内活性化の拠点とするために、村内各所の農地等を活用した貸農園や農業体験事業を実施し、本施設はその受付や、利用者相互の交流の場所として計画します。なお、本施設の敷地内への農地等の設置は想定していません。

⑥ トイレ等

- ・1 階の飲食物販やイベントスペース等を利用する方向けに 1 階にトイレを設置します。
- ・安心安全で快適なトイレを計画します。
- ・高齢者や障がい者など、利用者全てに配慮したユニバーサルデザインとします。
- ・子育て世代が利用しやすいような授乳室や子ども用トイレ、休養室を設置します。

表 主な施設・設備と想定面積

主な設備	想定面積
・男子用・女子用トイレ・子ども用トイレ ・多機能トイレ ・授乳室、休養室	70 m ² 程度

○イメージ



出典：福島市 道の駅ふくしま 記者発表資料

⑦ 子どもの遊び場

- ・幼児～小学校低学年の子どもを対象とした子どもが安心安全に遊べる屋内の遊び場を設置します。
- ・年間を通して誰もが無料で利用できる施設とします。
- ・夏季等繁忙期は予約制や整理券を配布するなどして混雑緩和のために管理者を配置しますが、基本的には保護者が見守りながら子どもが遊ぶ環境を想定しています。

表 主な施設・設備と想定面積

主な施設・設備	想定面積
・幼児・小学校低学年用の遊具 ・受付・待合	遊戯エリア：約 150 m ² （収容人数 50 名を想定） 受付・待合：約 150 m ²

○イメージ



出典：新潟県五泉市 HP ラポルテ五泉 子どもの遊び場

3. 外構

① 駐車場

- ・ふれあいの郷に訪れた方が利用しやすい動線・駐車スペースを計画します。
- ・全面バリアフリーの平面駐車場で、道路からのアクセス、施設間に隔たりが生じないように配慮します。
- ・歩行者の通行スペースは安心安全に利用できるように工夫します。
- ・飛島村公共交通バス・蟹江線の利用を考慮した駐車場計画を行います。
- ・駐車場台数を 200 台整備します。

表 主な施設・設備と想定面積

主な設備	想定面積
・一般車両駐車場	6,000 m ² 程度
・車いす使用者用駐車スペース	一般車 190 台分、車いす使用者用 10 台分を想定
・駐輪場	(一般車:25 m ² /台、車いす使用者用:30 m ² /台)
・電気自動車用充電設備	駐輪場 200 台分

〇イメージ



出典: 韮崎市健康ふれあいセンター ゆ〜ぶるにらさき

② 芝生広場

- ・イベント、子どものあそび場など、多様な使われ方を想定します。
- ・既存の日本庭園と合わせて多くの方が散策し、ふらっと立ち寄って楽しむ工夫を施します。
- ・日本庭園付近には、案内看板を設置することで、庭園に関しては東側からの動線を整備し、多くの方が訪れる仕組みを導入します。

表 主な施設・設備と想定面積

主な施設・設備	想定面積
・イベントスペース ・芝生広場	4,000 m ² 程度

○イメージ



出典：豊田市駅東口まちなか広場
拠点施設運営・管理事業評価会議 評価結果報告



出典：新潟県五泉市 HP ラポルテ五泉 緑の広場

■既存施設整備

既存施設に関しては以下のように想定します。

表 既存施設の整備概要

施設名	整備概要
敬老センター	従来 of 管理を継続します。
社会福祉施設	従来 of 管理を継続します。
日本庭園	日本庭園にアクセスしやすくなるように出入口を改修します。
足湯	必要に応じて解体撤去または再整備します。

4. アクセス路の考え方

【既存状況】

既存の計画地において、敷地内への主なアクセスは北側の道路に接続する3箇所、西側から歩行者用、中央付近にエコプラザ用、東側にふれあい温泉・敬老センター用が設置されています。エコプラザ用とふれあい温泉・敬老センター用に関しては、自動車の相互通行が可能となっています。

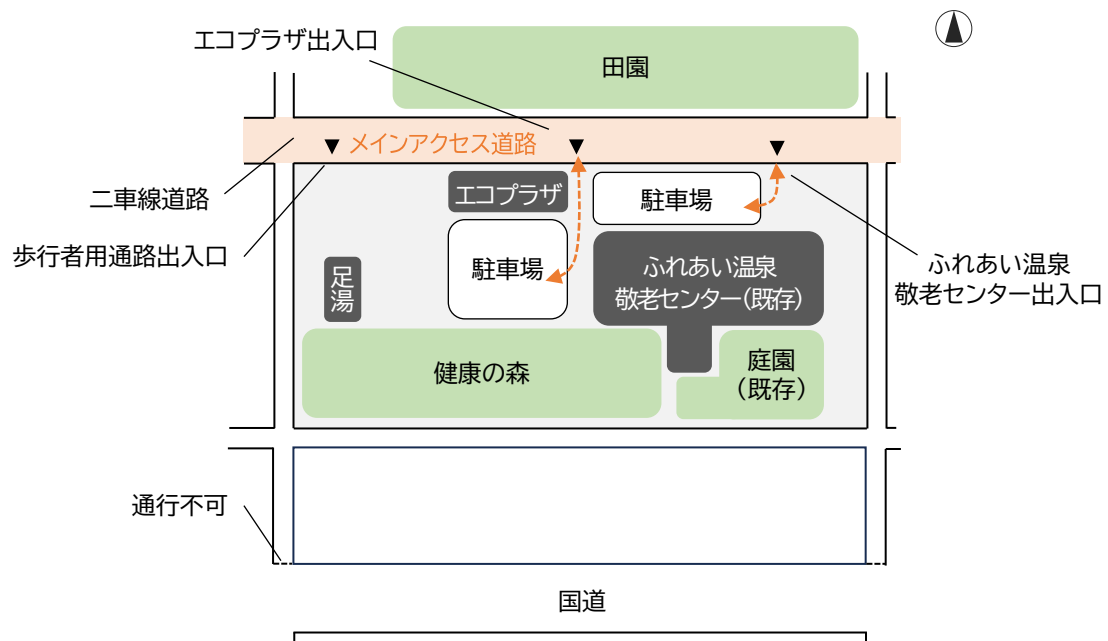


図 既存施設のアクセス路の状況

【新しい整備の考え方】

計画地へのアクセスに関しては、基本的に自動車での来場を主として想定し、自動車動線に配慮しながら歩行者の安全性確保に努めます。

そのために北側の道路からのアクセスを維持しつつ、既存の出入口を活用しながら、歩行者と自動車の通行が交錯しないように、自動車の経路を一方通行にするなど敷地内の通路と駐車場位置を検討します。

また、これまで自動車の出入口が2箇所あったものを計画地内の施設を一体的に連携しながら運営していくために、入口を1箇所に集約することとし、出口を別で設置することを想定しています。

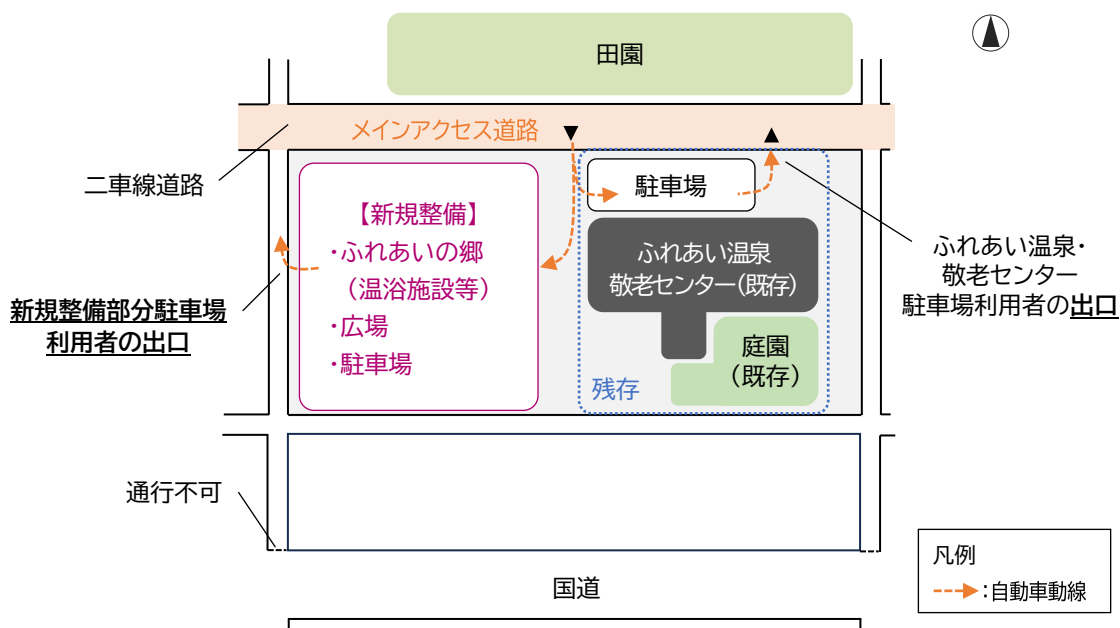
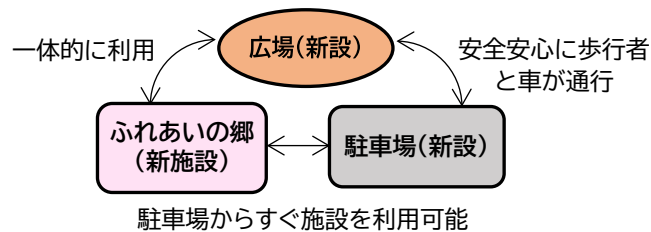


図 新しく整備の際のアクセス路の考え方

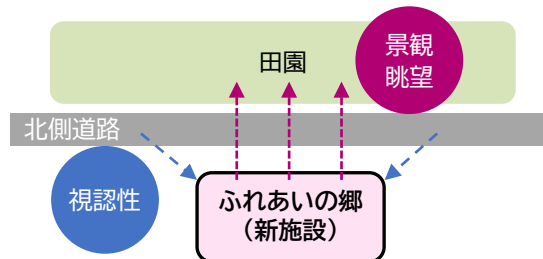
5. 配置の考え方

これまでの機能・規模の検討や、アクセス路の考え方を踏まえて、配置のポイントを以下にまとめます。

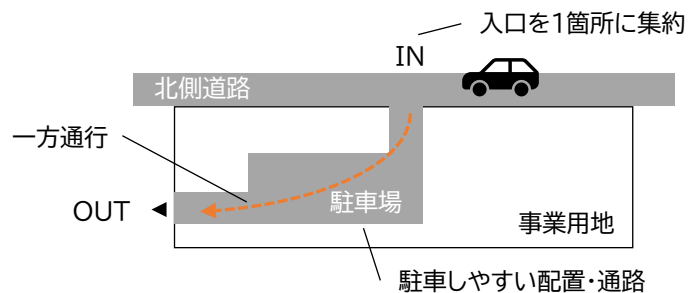
ポイント 1 建物、広場、駐車場をそれぞれ1箇所に集約し、それぞれを安全に行き来しやすく、利便性の良い配置にする。



ポイント 2 北側の田園風景や道路からの視認性を意識した施設配置にする。



ポイント 3 車での来場が多いことを想定し自動車交通に配慮した施設配置・駐車場・通路計画とする。



ポイント 4 残存する既存施設(ふれあい温泉・敬老センター、日本庭園、駐車場)に配慮したゾーニング計画とする。

6. 平面計画の考え方

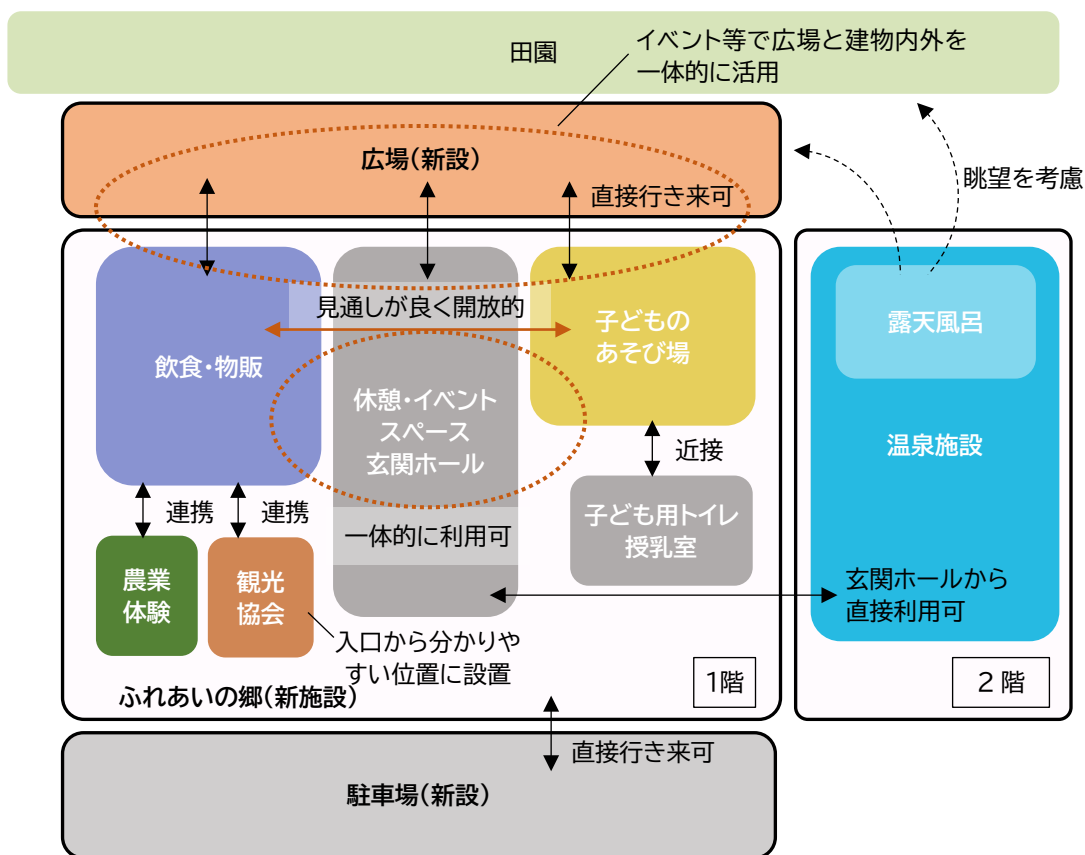
敷地全体配置の考え方、建物の諸室配置の考え方を整理した上で、全体配置イメージを作成しました。

■敷地全体配置計画の考え方

- ・建物と広場が一体的に利用されることを想定し、北西の1か所に広場を集約します。
- ・広場と駐車場は建物と一体的に活用できるように建物の周囲を囲むように配置します。
- ・駐車場は 200 台計画し、1か所にまとめて配置します。

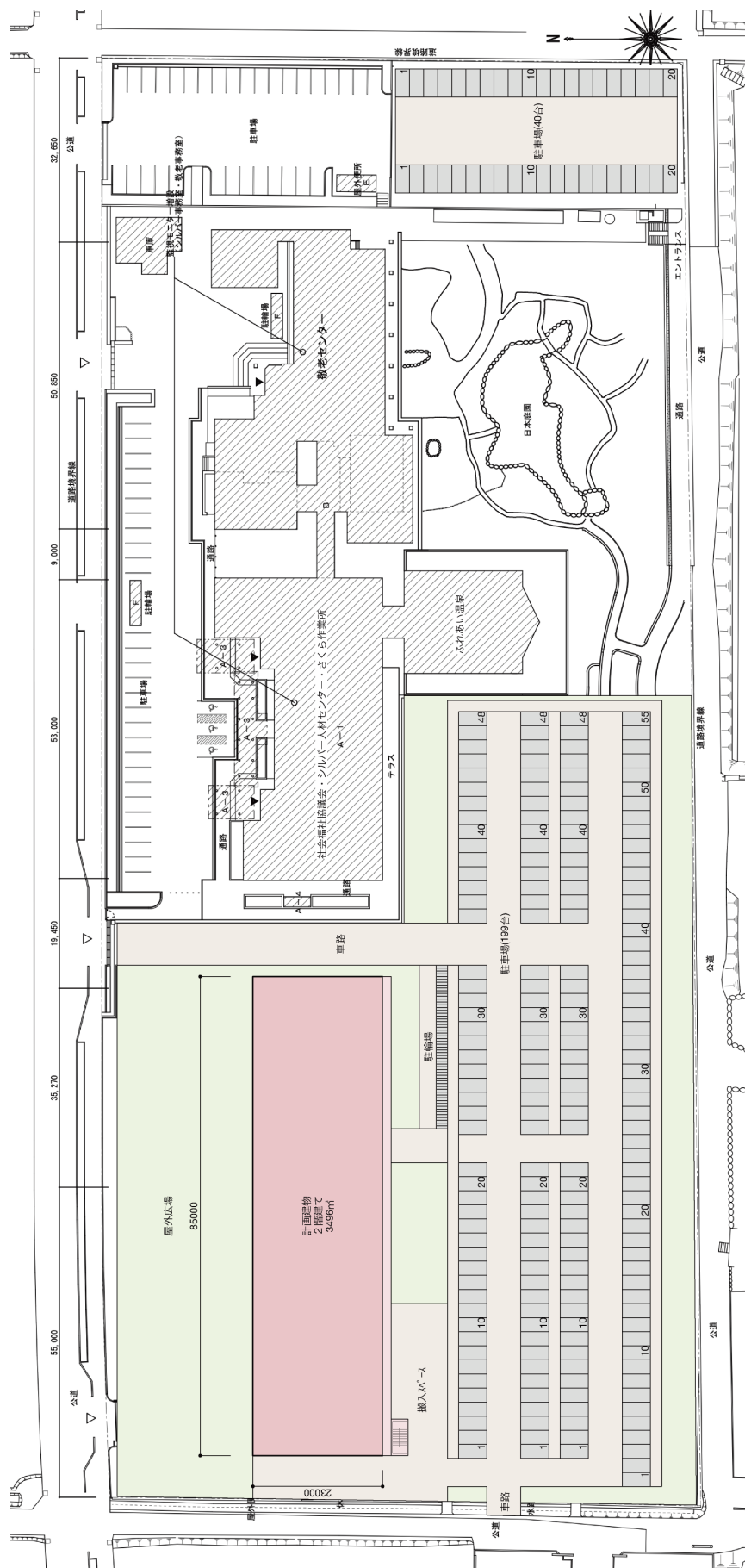
■新設の建物の諸室配置の考え方

- ・下図のように、各機能が相互に連携を図りやすいような配置とします。



図：配置・平面計画のイメージ

ここまでの検討をもとに、以下の全体配置イメージが想定されます。



図：全体配置イメージ

第4章 管理運営の考え方

1. 基本的な考え方

コンセプトである「ふらっと」に相応しい再整備を行うためには、主な機能である交流機能(温浴施設、飲食物販 等)、産業振興機能(イベントスペース、チャレンジショップ)、観光機能等において、様々な工夫を凝らし、利用者ニーズをくみ取りながら事業展開を実施し続ける必要があります。



また、村の財政状況等を鑑みて安定的に充実したサービスの提供を維持していくためには、施設の再整備後の維持管理や将来的な施設の改修費や運営費等のランニングコストを抑え、さらには経営収支の最大化を目標としなければいけません。

そのため、民間のノウハウを活用することで、本整備事業において継続的ににぎわいを創出し、温浴施設を含む複合施設としてサービスを提供することとします。

2. 運営内容の検討

各機能の詳細な運営内容(案)、利用形態等を示します。

① 温浴施設

温浴施設の利用料金は、周辺市において近年整備された日帰り温泉施設の入浴料と同程度を想定しますが、今後、事業者の提案を踏まえて検討することとします。また、村民料金の設定や、既存のふれあい温泉の利用方法についても、今後検討するものとします。

表 温浴施設の管理運営概要

項目	概要
想定営業時間	14 時間
想定年間営業日数	平日:240 日 土日祝日:120 日 計 360 日
想定収容人数	600 人

② 飲食・物販

温浴施設に合わせて、基本的に年間を通じて営業することとします。

温浴施設を利用しないかたでも飲食・物販施設を利用可能な運営を想定します。

③ 子どもの遊び場

悪天候時も子どもを遊ばせることが可能な場所を提供しますが、基本的には保護者の管理のもとで遊ばせる施設とし、子どもの預かりや、プレイリーダーの配置は想定しません。

表 子どもの遊び場の管理運営概要

項目	概要
想定営業時間	8 時間
想定年間営業日数	平日:240 日 土日祝日:120 日 計 360 日
想定収容人数	50 人
対象	幼児～小学校低学年

④ チャレンジショップ

起業を目指す方に共用キッチンを貸出するものとし、相談員の配置は想定しません。

⑤ 農業体験

貸農園等の利用を希望される方への情報案内、受付業務等を実施することを想定します。

⑥ 観光案内

観光交流協会等に施設を貸付し、観光交流協会等が観光案内業務や村内イベント業務等を実施することを想定します。

第5章 整備の方向性

1. 整備の方向性

第3章、第4章で検討した整備イメージは、関係各主体の意向を踏まえ、必要とされる機能を最大限盛り込んだたたき台となっています。一方で、近年の物価高騰の影響もあり、このたたき台をベースに事業を進める場合には、整備費が約45億円程度と高額になることが想定されます。

そこで、建物規模の縮小や既存施設の活用、運営費の縮減と収入の増加など、今後の事業化に先立ち、今一度コスト縮減の検討を行い、中長期的な運営収支も加味した事業内容・事業スキームを検討します。

2. コスト縮減案の検討

コスト縮減案として、以下のパターンが考えられます。

今後、これらのコスト縮減案をもとに、利用者の需要調査、民間事業者の進出条件確認を行い、中長期的な運営収支を加味した総事業費をふまえて、整備する機能・規模の精査および、運営方法等を含む事業スキームの検討を行う必要があります。

表 コスト縮減案

項目	原案 【2階建て新築案】	パターン① 【2階建て面積縮小】	パターン② 【平屋面積縮小】	パターン③ 【既存施設改修】
導入機能	温浴施設（新設）/飲食物販/イベントスペース/チャレンジショップ/観光交流協会/子どもの遊び場/芝生広場	温浴施設（新設）/飲食物販/イベントスペース/チャレンジショップ/観光交流協会/子どもの遊び場※/芝生広場	温浴施設（新設）/飲食物販/イベントスペース/チャレンジショップ/観光交流協会/子どもの遊び場※/芝生広場	温浴施設（既設改修）/飲食物販/イベントスペース/チャレンジショップ/観光交流協会/子どもの遊び場※
整備イメージ	温浴複合施設（3,500㎡）を整備	温浴・飲食物販施設（2,500㎡）および、コストを抑えた建物による交流施設（200㎡）を整備 ※子どもの遊び場は、既存施設の一部を改修して設置することを想定	温浴施設（2,000㎡）および、コストを抑えた建物による飲食物販・交流施設（700㎡）を整備 ※子どもの遊び場は、既存施設の一部を改修して設置することを想定	既存の温浴施設を改修し高齢者と一般客が常時利用できるようにするほか、コストを抑えた建物による飲食物販・交流施設（700㎡）を整備 ※子どもの遊び場は、既存施設の一部を改修して設置することを想定
イメージ図	1棟の建物の中に、温泉、飲食、イベントスペース等の新たな機能を全て整備	イベントスペース、チャレンジショップ、観光交流協会等を、杭などが不要で安価に建てられる建物で整備	温浴施設は平屋とし、パターン①に加えて、飲食物販部門も、安価に建てられる建物で整備	飲食・物販やイベントスペース等は、安価な建物で整備 温泉は、既存温泉に露天風呂やサウナ等を増設

(1) 原案

3,500㎡の温泉複合施設を新設する案です。

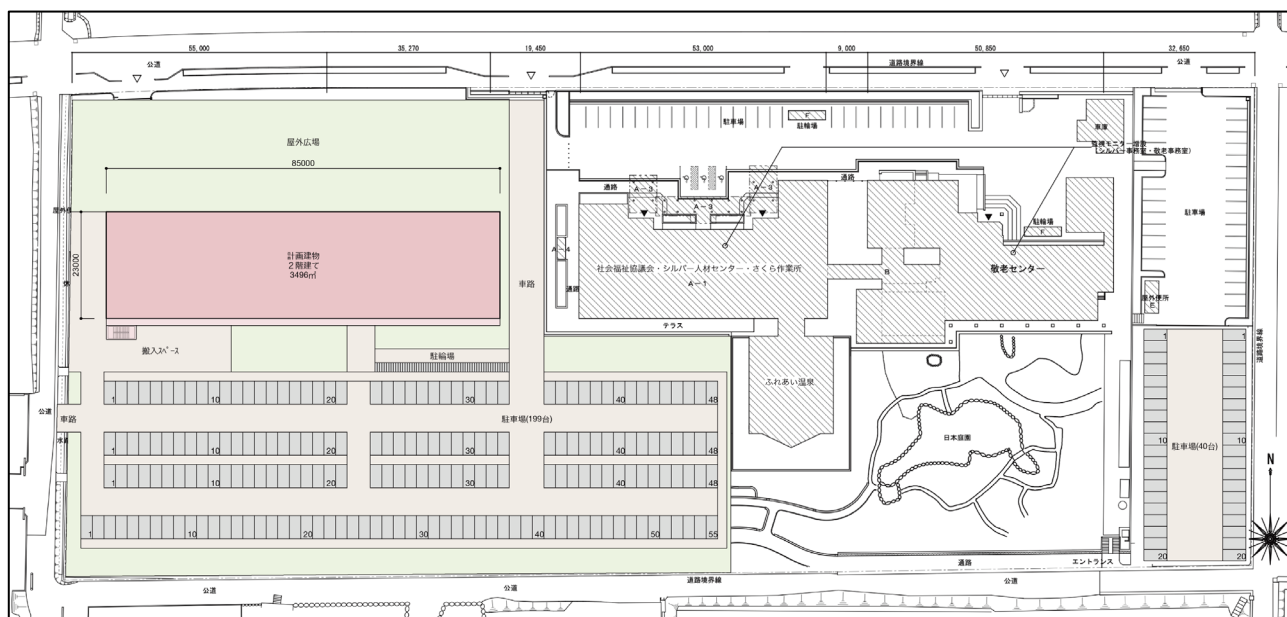


図 原案の計画図

表 原案の概要

導入する機能	温浴施設(新設)/飲食物販/イベントスペース/チャレンジショップ/ 観光協会/子どもの遊び場/芝生広場
導入を見合わせる機能	なし (農業体験はソフト事業として実施)
建物の構造	2階建て1棟
既存施設の改修	なし
規模・商圈	延床面積:3,500平米 商圈範囲:9km(商圈人口41万人) ※温浴施設や飲食物販など集客部分の面積330㎡あたりの商圈を1kmとして設定
特徴	・村内高齢者の温浴施設の環境は変わらない ・民間事業者の提案の自由度が大きい
検討が必要な事項	・既存施設と新施設の間に車路があり、交流が生まれづらい可能性 がある ・整備費が約45億円と高額になる

(2) コスト削減案パターン①

2,500㎡の温浴・飲食物販施設および、低コスト建築による200㎡のイベントスペース、チャレンジショップ、観光協会棟を新設する案です。なお、子どものあそび場は、既存施設の一部を改修して設置することを想定します。

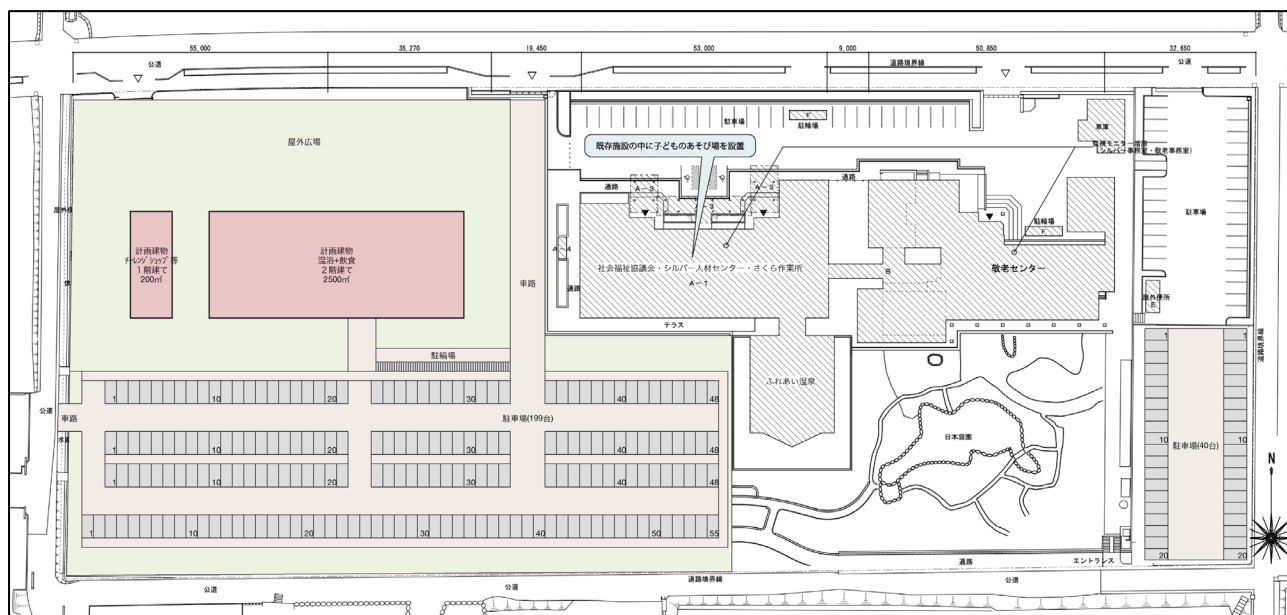


図 コスト削減案パターン①の計画図

表 コスト削減案パターン①の概要

導入する機能	温浴施設(新設)/飲食物販/イベントスペース/チャレンジショップ/観光協会/子どもの遊び場/芝生広場
導入を見合わせる機能	なし(農業体験はソフト事業として実施)
建物の構造	2階建て1棟(温浴、飲食物販) 平屋コンテナ等S造1棟(観光協会、チャレンジショップ)
既存施設の改修	あり(子どもの遊び場増設)
規模・商圈	延床面積:2,700平米 商圈範囲:9km(商圈人口41万人) ※温浴施設や飲食物販など集客部分の面積330㎡あたりの商圈を1kmとして設定 ※集客部分の面積には、新設+既存施設の改修面積を含む
特徴	・村内高齢者の温浴施設の環境は変わらない ・原案と比べ、建築費を削減できる
検討が必要な事項	・既存施設と新施設の間に車路があり、交流が生まれづらい可能性がある ・温浴・飲食棟と観光協会・チャレンジショップ棟が分棟となり連携しづらい可能性がある ・子どものあそび場設置・運営に関して、既存施設関係者との調整が必要 ・コスト削減案パターン②、③と比べ事業費は大きい

(3) コスト削減案パターン②

2,000㎡の温浴施設および、低コスト建築による500㎡の飲食、物販棟と、200㎡のイベントスペース、チャレンジショップ、観光協会棟を新設する案です。なお、子どものあそび場は、既存施設の一部を改修して設置することを想定します。

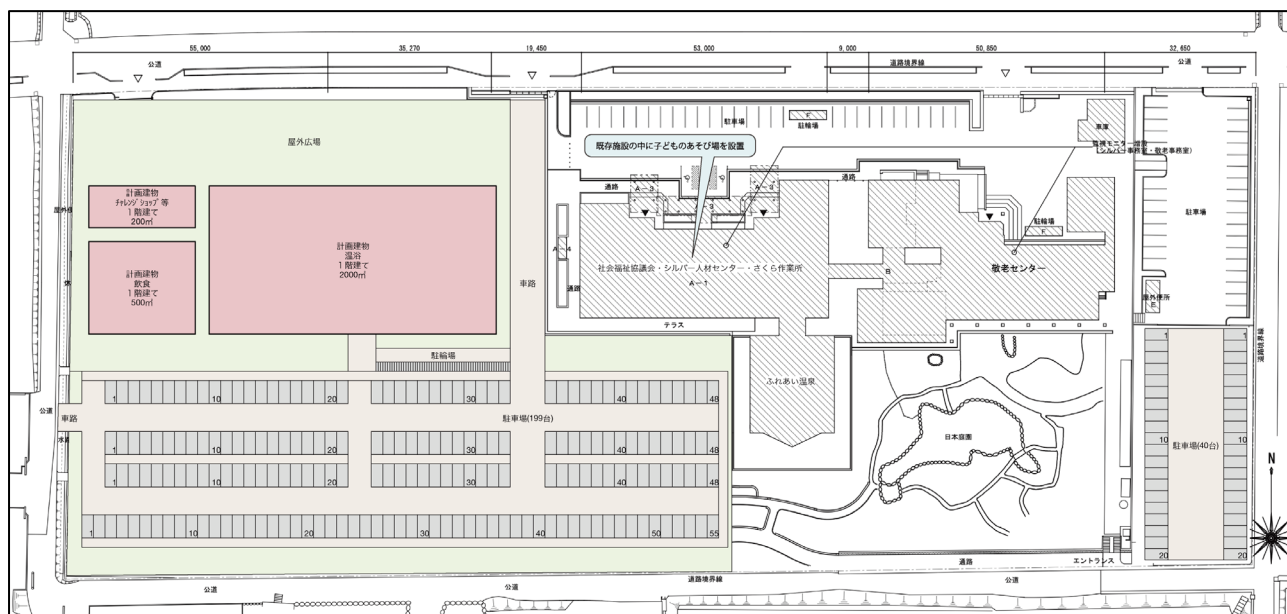


図 コスト削減案パターン②の計画図

表 コスト削減案パターン②の概要

導入する機能	温浴施設(新設)/飲食物販/イベントスペース/チャレンジショップ/観光協会/子どもの遊び場/芝生広場
導入を見合わせる機能	なし(農業体験はソフト事業として実施)
建物の構造	温泉棟1棟 平屋コンテナ等S造1棟(飲食、物販) 平屋コンテナ等S造1棟(観光協会、チャレンジショップ)
既存施設の改修	あり(子どもの遊び場増設)
規模・商圈	延床面積:2,700 平米 商圈範囲:9km(商圈人口41万人) ※温浴施設や飲食物販など集客部分の面積 330 ㎡あたりの商圈を1kmとして設定 ※集客部分の面積には、新設+既存施設の改修面積を含む
特徴	・村内高齢者の温浴施設の環境は変わらない ・原案およびパターン①と比べ、建築費を削減できる
検討が必要な事項	・既存施設と新施設の間に車路があり、交流が生まれづらい可能性がある ・温浴棟、飲食棟、観光協会・チャレンジショップ棟が分棟となり連携しづらい可能性がある ・子どものあそび場設置・運営に関して、既存施設関係者との調整が必要 ・コスト削減案パターン③と比べ事業費は大きい

(4) コスト削減案パターン③

温浴施設は既存施設を改修して新たな客層を呼び込むために露天風呂・サウナ等を増設し、飲食物販・イベント・チャレンジショップ・観光協会は、低コスト建築により新設する案です。

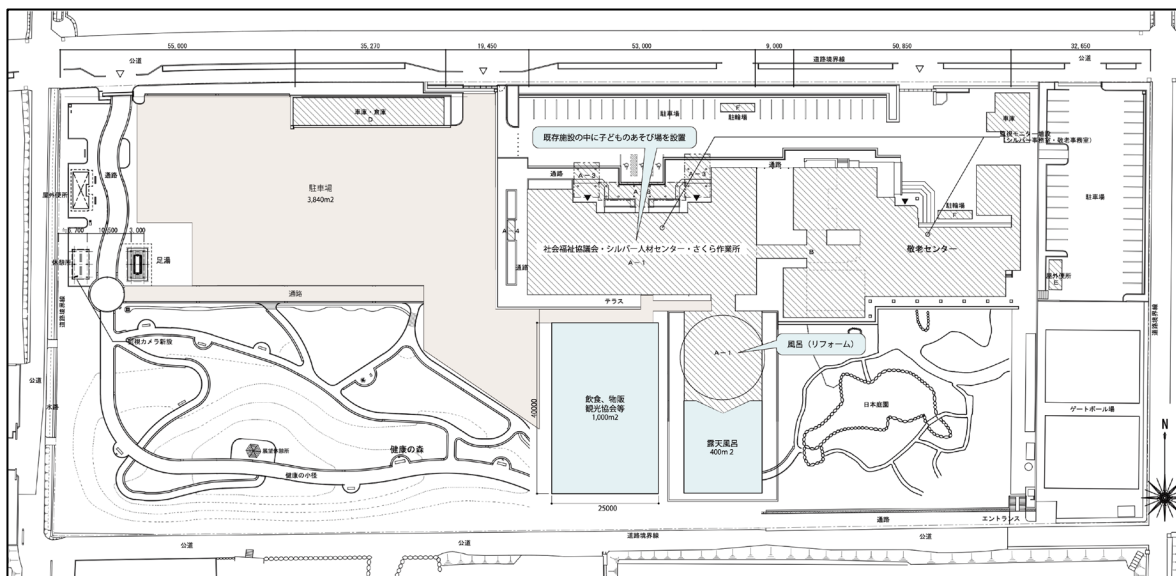


図 コスト削減案パターン③の計画図

表 コスト削減案パターン③の概要

導入する機能	温浴施設(既設改修)/飲食物販/イベントスペース/チャレンジショップ/観光協会/子どもの遊び場
導入を見合わせる機能	芝生広場(マルシェ等は駐車場で実施) (農業体験はソフト事業として実施)
建物の構造	平屋露天風呂(サウナ)増設 平屋コンテナ等 S 造 1 棟(物販飲食、観光協会、チャレンジショップ)
既存施設の改修	あり(既存温浴施設改修、子どもの遊び場増設)
規模・商圈	延床面積: 2, 300 平米 商圈範囲: 7km(商圈人口 21 万人) ※温浴施設や飲食物販など集客部分の面積 330 m ² あたりの商圈を 1km として設定
特徴	・初期投資を縮減可能 ・村内高齢者と一般客の交流を図りやすい ・村内高齢者も、新設する露天風呂や湯上りラウンジ等を利用できる
検討が必要な事項	・既存温浴施設を全日一般開放するため、村内高齢者の方にとっては環境が大きく変わる ・既存の温泉を改修、増築するため、施設レイアウトが限られる ・福祉目的の温泉と、交流・集客目的の温泉では、利用者の客層が異なるため、集客・運営に工夫が必要 ・子どものあそび場設置・運営に関して、既存施設関係者との調整が必要

3. 今後のスケジュール

以下の工程表のように、今後、整備方針を精査した上で、官民連携手法等による事業者公募を行い、設計、工事を進めていくことが考えられます。

表 今後のスケジュール

